

## おわりに

副学長 高尾 典史

文部科学省の補助金を得て平成 15 年度に全学的な取組として始めた「体験に基づく発見的・自己開発的な学習」が今年度で最終年となった。平成 15 年度までの蓄積を踏まえて始めた取組であるが、この 7 年間の報告集では、学部・学科の取組、個別の授業やプロジェクトでの実践報告、体験型学習への考察など、延べ 109 本の報告や考察が綴られている。

この中で学生を中心とする報告会やシンポジウムが 3 回掲載されており、種々の体験による学習成果を読み取ることができる。そこから外部との連携による大々的なシンポジウムに展開していった取組もある。

このように本学は座学に加えて学生参加型教育を特色としており、このような取組が学びの本来の姿である自発的・内発的な営みへと導く一助になるものと考えている。今回で本取組は文部科学省がこの補助金を廃止することで終了するが、次のステップへとつなげていかなければならない。そのために、次年度から「教育開発奨励制度」を設けて仕切り直しをすることになっている。

教育開発奨励制度は単にこれまでの取組を継承するのではなく、問題点を踏まえたものとして、それは、①個別的なものから広がりを持つものに、②継続（継承）されやすいものに、③教育プログラムとして展開が見込めるものにということである。そのために予算単価を増やし、複数年での取組が可能のように、また、優れた取組は表彰することになっている。教育改革は一朝一夕には進まないとしても、優れた取組が学内で共有化されることの意味は大きいと考えている。